

「飯豊早春の石転び沢」を一日で歩いた。

令和4年(2022)4月11日 行動時間 13時間 距離 25km

コース：倉手山越え～玉川の吊り橋を渡り温見平～石ころび沢～梅花皮岳と北股岳の鞍部～北股岳～門内岳～頼母木山～西俣の峰～入山口へ

毎年この時期に石転び沢を目指すことにしている。しかし、倉手山の斜面に付けられた天狗平への道路がデブリで覆われ、安全に歩くことはできない。去年は無理矢理通過し、川への滑り台に肝を冷やした。

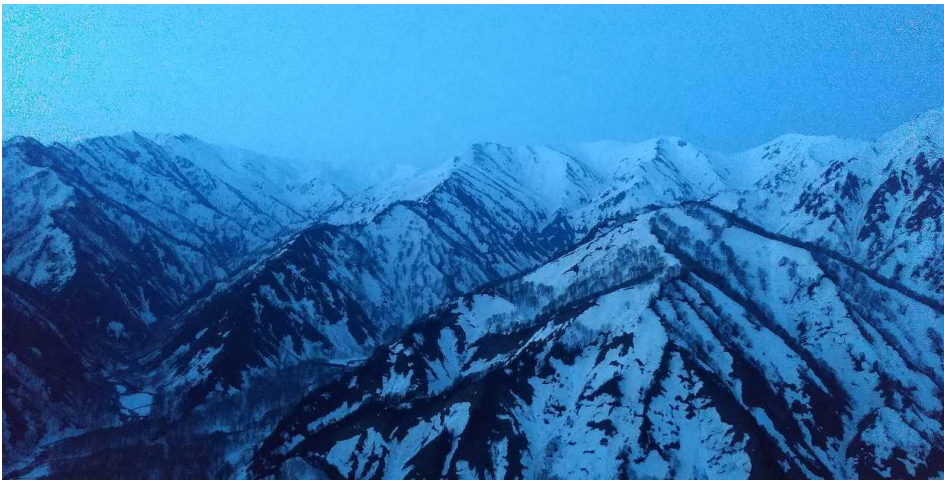
今年はデブリを避け、古くから使われていたと思われる倉手山越えルートを使用した。

朝二時半、ヘッドライトを付け、梅花皮荘駐車場から倉手山登山口へ歩き出す。肌寒い歩き始めではあったが気温は零下まで下がることはなく、数分で脱いだシェルを最後まで着ることはなかった。

除雪最終点からまもなくのデブリ帯は林道端が見え初め脇を掠めて通ることができた。少しずつではあるが春の足音は飯豊にも歩みを進める。

前日2日間は風が強くも快晴であり、選択肢として倉手山を選んだ登山者がいたのか雪上のトレースは強く、山頂まで伸びている。

早朝の倉手山山頂



、時刻は5時。

伸びてきた日照時間により飯豊連峰が大きく目の前に現れた。これから歩く稜線に目をやりながら軽く食事をし、温身平へ降りる尾根を歩き始めた。このルートは地元の方々が使用されていると耳にした記憶がある。踏み後はある程度強く、古いトラロープも確認できた。きっと愛されている道なのだろう。

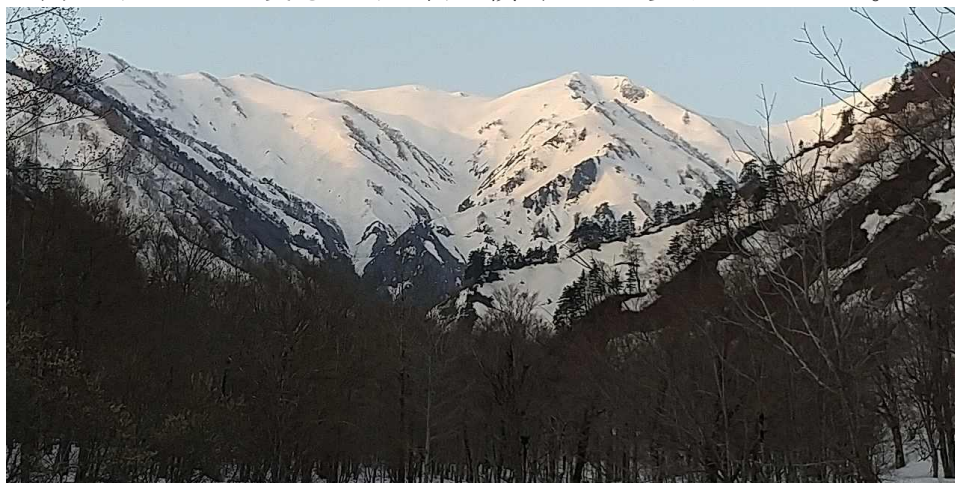
温身平の積雪は1m程度。対岸へは作業用の吊り橋を渡る。



は外されてはいたが固定されていることもあり、容

易に渡ることが可能。ゴウゴウと雪解け水が足元を流れてゆく。時間が動いていることを感じる。

石転び沢ルートに入り、階段のある堰堤を越え500mも進むと沢は雪の中へ消えた。辺りは水の流れる音が消え春を謳歌する鳥達の声だけになる。結局石転びの出合いまで沢筋から高巻くことは一度もなく豊富な積雪により歩いてしまった。



温見平から

去年の3月20日に登ったときは地竹原より安定した雪上に乗れたので今年がいかに積雪が多かったかが伺える。

巨大な門内沢と石転び沢を見渡せる出合いはこの時期に不釣り合いなほどの暖かい風が吹いている。後ろの方でガラガラと崩落する音が聞こえる。時刻は七時。今日は見学もそこそこに少し早めに雪渓を抜けよう。



暖かい風により柔らかくなった雪質で沈み込みはするがさほど苦にはならず、ザクッザクッとテンポ良く歩幅を気にしながら進む。



地竹原より

後ろを振り向けば両サイドの尾根により誇張された朝日連峰の山々が高度を上げるごとに増えてくる。少し強めの靄がかかっていたのは少し残念ではあった。本石転び沢や北股沢も雪渓に欠けなど全く無く、その白いラインはピークまで繋がる。スキーヤーが喜びそうだった。と、同時に初見では困惑するとも思う。



門内沢と石ころび



石ころび沢全景

雪渓も終盤になり斜度が増す。小屋へは一旦左岸側から右岸へトラバース気味に歩くが一気に直線的に登る。



北股沢と石ころび



梅花皮小屋と北股岳

斜度が緩むと小屋に近いイメージではあったが斜度が緩まず、気づけば小屋の目の前へ。少し脈が上がり肩で息をしながら小屋の後ろ側へ行くと大日岳がキラキラしながら迎えてくれた。少し休んでから帰ろう。

笹もほとんど出ていない北俣岳への登りにへとへとになりながら帰路の西俣へと歩いた。毎年現れては消える同じ形状を歩くことがない美しいルートを大切に歩きたい。